

シクリスムエコーNo.89 2002年8月号

2002 全日本マウンテンバイク選手権 2
 平成14年度 全国高校総合体育大会(インターハイ) .. 4
 第8回MTBアジア大陸選手権大会 / アジア大会選手団・ 7
 ツールド・チャイナ 2002 8
 ツールド・テンハイ湖 / 岩手サイクルチャレンジ 9
 TOUR de L'ABITIBI 2002 10
 2002 ロード・トラック・ランキング 12

お知らせ「ツール・おきなわ/チャレンジ・ザ・オリンピック」・ 13
 競技大会結果 14
 トラック・ワールドカップ第5戦 中国・昆明 15
 日本新記録 15
 '02~'03 国内シクロクロスカレンダー 16
 選手強化委員会から新メンバーお知らせ 16
 連盟の動き / 編集後記 16



全日本選手権MTB・DH男子エリート優勝の内嶋

2002 全日本マウンテンバイク選手権



男子DHエリート優勝の内嶋



女子DHエリート優勝の末政

「2002全日本マウンテンバイク選手権in石川MTBワールド瀨女」が石川県尾口村の白山瀨女高原スキー場で、7月26日から28日の猛暑の中、開催された。

26日(金)にはエキシビションの男女4クロスが行われ、男子は井出川直樹、女子は末政実緒が優勝した。

27日(土)には本戦が始まり、3.65kmの難コースでダウンヒル男子エリート、マスター、ジュニアと女子が行われた。

28日(日)は6kmの周回コースでクロスカントリー男子エリート、マスター、U23、ジュニアと女子の5部門が行われ、男子エリートでは鈴木雷太がチャンピオンジャージを手中にした。

[競技結果]

DHエリート (3.65km)

- 1 内嶋 亮 東京 A&F SANTA 5:24.64
- 2 井出川直樹 広島 グローバル 5:26.33
- 3 竹本 将史 埼玉 ブリヂストン 5:34.77
- 4 丸山 弘起 長野 GT japan 5:36.97
- 5 塚本 岳 埼玉 MX/MONG. 5:38.14
- 6 和田 良平 大阪 TREK JAPAN 5:42.96
- 7 寺本 俊介 三重 Team cheeta 5:49.05
- 8 多田 引之 大阪 CHEETA 5:49.57
- 9 今田 大三 愛知 MPR 5:52.27
- 10 黒川陽二郎 石川 C・S・P corp 5:53.91

DH女子 (3.65km)

- 1 末政 実緒 兵庫 TREK/VW 6:38.78
- 2 増田 まみ 千葉 X-TRAIL 6:48.00
- 3 猪俣 浩子 神奈川 FOES/CRED. 7:08.80
- 4 久家 麻妃 岐阜 DD BIKES 7:41.80
- 5 水庫 士実 長野 mom&pop 7:44.88
- 6 藤中 治子 京都 KUWAHARA 8:01.15
- 7 鴨下 美穂 神奈川 DD BIKES 8:05.52
- 8 杉山 美佐 静岡 DD BIKES 8:14.61
- 9 池田 恭子 東京 FFC/HOT 8:15.79
- 10 松田 恵美 東京 MX/MONG 9:04.64

DHジュニア (3.65km)

- 1 青柳修一郎 東京 フォード/スパンシャ 5:59.97
- 2 小鷹 吉国 埼玉 130 KAM 6:31.85
- 3 青木 卓也 東京 クワ遊輪館 6:34.69
- 4 河合 将志 愛知 COUNTRY 7:08.12
- 5 阿藤 寛 大阪 1-jyo AV sto 7:14.46

- 6 小南 大地 神奈川 ツツエルコーポ 7:21.34
- 7 岡 修平 大阪 R.S.Factory 7:26.70
- 8 五十嵐勇樹 神奈川 グローブ 鎌倉 7:59.93
- 9 飯田 隆彦 東京 8:10.97
- 10 小野口敦之 栃木 8:19.89

DHマスター (3.65km)

- 1 三山 孝幸 石川 FRS・トクモ 6:13.27
- 2 渡邊 浩 新潟 FORD/SPE. 6:13.50
- 3 中沢 政満 新潟 Amigo 6:23.39
- 4 三輪 和弘 神奈川 MARSH 6:25.24
- 5 佐々木善典 岩手 EXTREME 6:25.89
- 6 小西 基且 徳島 re-action 31 6:32.77
- 7 能島 光明 岡山 ロールアウト温泉 6:38.81
- 8 伊藤 康喜 千葉 リトル・ル 6:39.02
- 9 山崎 勉 栃木 K・BROS 6:41.37
- 10 嶋 達也 富山 MAD ANGEL 6:42.45

エキシビションの4クロス





男子XCエリート優勝の鈴木



女子XC優勝の南部



男子XC U-23のスタート



男子XCジュニア
優勝の宮本

[競技結果]

XCIリト (36km)

- 1 鈴木 雷太 長野 ブリヂストン 1:52:46.26
- 2 山口 孝徳 長野 MX/MONG 1:53:35.52
- 3 野口 忍 京都 TREK 1:55:54.90
- 4 竹谷 賢二 千葉 FORD/SP 1:57:16.06
- 5 松本 駿 長野 GT JAPAN 1:59:07.91
- 6 深谷 幸彦 愛知 TARGET 2:00:09.31
- 7 檀 拓磨 長野 Jamis 2:00:35.76
- 8 堂城 賢 長野 GARY FISHER 2:01:09.03
- 9 大矢 繁 大阪 チームF1 2:01:23.29
- 10 柴田健太郎 福岡 Q-MAX 2:01:52.98

XC女子 (24km)

- 1 南部 博子 長野 TREK VW 1:27:29.76
- 2 小林可奈子 長野 A&F 1:34:42.03
- 3 真下 正美 神奈川 SY-Nak 1:37:09.11
- 4 高橋いづみ 東京 SY-Nak 1:39:47.06
- 5 田崎 綾 千葉 1:40:22.04
- 6 深井 薫 大阪 FUN RIDE 1:40:35.49

- 7 山口麻理子 福井 BALBA -1 lap
- 8 酒井 真清 大阪 TEAM Be-One -1 lap
- 9 伊藤真里子 京都 チームM ン -1 lap
- 10 田近 郁美 岐阜 GOD HILL -2 laps

XC-U23 (30km)

- 1 小笠原崇裕 長野 TREK 1:35:09.84
- 2 白石 真悟 大阪 大阪大学 1:38:26.73
- 3 色川 浩樹 茨城 GIANT 1:40:20.32
- 4 山本 和弘 北海道 GAS PAN 1:41:39.84
- 5 竹本 和也 愛知 ターゲット 1:44:02.39
- 6 山辺 誠司 埼玉 ビルバ 1:44:52.79
- 7 辻浦 圭一 奈良 チームMIA 1:47:59.61
- 8 高井 佑介 埼玉 1:49:26.26
- 9 佐藤あきら 愛知 TAILLEFER -1 lap
- 10 成瀬日出登 愛知 TARGET -2 laps

XCジュニア (24km)

- 1 宮本 優 千葉 Jamis 1:21:38.14
- 2 山本 幸平 北海道 KBC カタ 1:26:58.17
- 3 小野寺 健 北海道 GAS PAN 1:30:10.25

- 4 佐伯 喜久 東京 XARU 1:34:28.75
- 5 藤森 大輝 香川 クルーズ 1:35:12.08
- 6 吉田 隆久 兵庫 チーム村トキ 1:37:01.09
- 7 今井 雅士 岡山 アミゴ倉敷 1:39:10.59
- 8 菅沼 大地 東京 YOU CAN -1 lap
- 9 梶 彰克 長野 A&F ロッキ -1 lap
- 10 大橋 穂高 山梨 D.BLOOD -1 lap

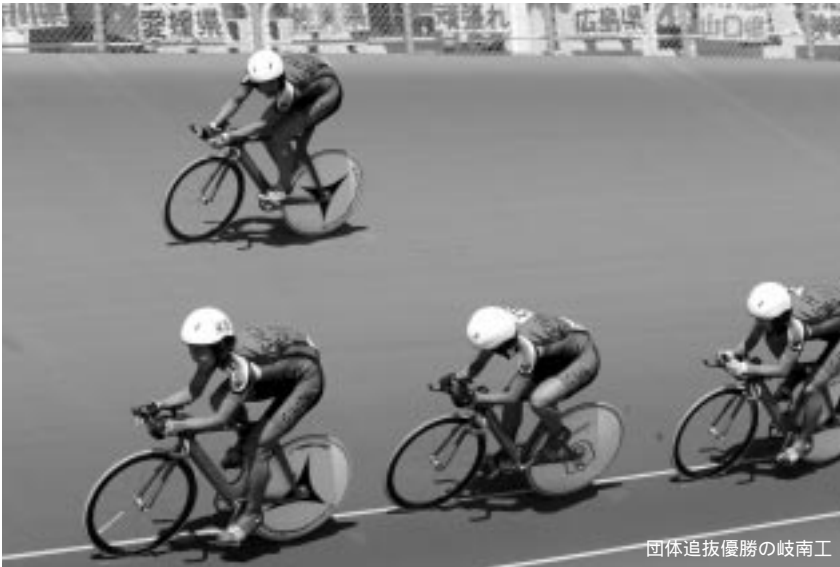
XCマスター (24km)

- 1 久保 伸次 京都 foobar 1:22:30.53
- 2 坂本 裕規 大阪 Panaracer 1:23:21.81
- 3 入江 克典 大阪 シバリキガ 1:24:59.23
- 4 橋爪 一博 愛知 三菱EVO 1:26:02.74
- 5 杉村 宗弘 長野 あづみの 1:26:13.16
- 6 那須 宏幸 大阪 SKY・RC 1:26:26.06
- 7 佐宗 広明 福島 西相模自転車 1:27:00.05
- 8 宇井 賢司 福井 BALBA 1:27:16.61
- 9 有井 雄二 東京 ヘルジタ 1:27:24.16
- 10 角田 和男 広島 Kazu 1:27:34.68





平成14年度 全国高校総合体育大会(インターハイ)



団体追抜優勝の岐南工

平成14年度全国高等学校総合体育大会(秩父宮記念杯第53回全国高等学校対抗自転車競技選手権大会、第47回全国高等学校自転車道路競走中央大会)が8月8日から11日、茨城県の取手競輪場でトラックレース、北茨城市・高萩市の特設周回コースでロードレースが開催された。

1kmタイムトライアル

猛暑と時折強く吹く(BS向い風)が影響したのか前半スタートの選手は低調な記録が続いた。その中でも注目のシード選手が最後に盛り上げてくれた。昨年熊本大会2位、高校選抜大会1位、本年長崎JOCカップ2位の最終組発走の、橋本強(松山星陵)が1分7秒043の好タイムで優勝、同組出走の地元茨城の須賀和彦(取手第一)が0.82差で2位に入った。3位には臼井(岐南工)が入った。

3kmインディヴィデュアルパーシュート

注目の決勝は予選2位の青木康貴(岐南工)と1位の金澤竜二(学法石



個人追抜優勝の青木

川)の対戦であった。前半より積極的に飛ばす金澤に対しペースを守る青木、1kmのSplitでは3秒03金澤がリード、2kmでも1秒56リードしていた。踏ん張る金澤に対し、最終周回に青木が追いつき逆転に成功そのままゴールし、3分43秒724で優勝、0秒519差で金澤が2位であった。3位には熊谷(岩瀬農業)が入った。金澤は予選で3分40秒456で走っているだけに残念である。2年生なので今後に期待したい。

スプリント

決勝は、予選9位の北津留翼(豊国学園)予選12位の三澤康人(東北)での対戦であった。予選こそ両者平凡であったがトーナメントが始まると難なく勝ち上がった。特に北津留は高校選

スプリント決勝、優勝の北津留(上)と三澤



抜大会1位、直前行われた長崎JOCカップ優勝、本年度ジュニアの代表選手でもあり、実力通り難なく勝利し優勝した。3・4位決定戦には予選1・2位の選手が対戦し、前田義和(鹿児島実業)が3位となった。

4km速度競走

レース前半はハイペースで周回を重ねるも単調な展開が続いた。8周目に大きくレースが動き、小野哲裕(藤沢北)が飛び出し先頭責任完了、それを追った柿本勇介(日出暘谷)も連続先頭通過で完了、最終周回ペースが緩んだところで4周目に完了していた竹山陵太(東北)がタイミングよく飛び出し逃げ切り優勝、2位には追い込んだ柿本、3位には小野が入った。

ポイントレース

5回目の中間スプリント後、4名の選手で逃げ集団が形成され、その後の中間スプリントすべてを獲得した。レース中盤までは持ち味のスピードを生かし、坂本昌宏(八戸工)が連続4回1位通過でポイントを重ねたが、後半は身崎琢磨(東北)が頭腦的な走りで連続3回1位通過した。レース序盤よりポイントを重ねた小岩大介(日出暘谷)を含む3名の選手に優勝争いが絞られ、最終スプリントの通過順位次第では3名の選手に優勝の可能性が残されており注目される中、最終スプリントを制した身崎が1位、2位には坂本、3位には小岩であった。



ポイントレース
1位身崎(下)、2位坂本



エリミネーション上位3名

エリミネーション・レース

決勝に相応しくハイペースでレースが進行した。レース前半に3名、中盤に1名の落車がありドロートとなったがレース全体に大きな影響はなかった。昨年までとは異なり3位選手を除外する際にベルで最終スプリントに入り、ゴールを制した武藤篤弘(前橋育英)が1位、2位には安部龍文(別府商)3位には小森正和(岐阜第一)が入った。

ケイリン

高校選抜の覇者、萩原和文(前橋工)が2コーナーからまくって優勝し、予選から三連勝で優勝に華を添えた。2位は同着で疋田雄一朗(日出暘谷)と柴崎俊光(朝明)が入った。

チームスプリント

決勝は地元茨城の取手第一と川越工(埼玉)との対戦であった。スタート直後から取手第一がリード地元の大声援の中、予選から通して唯一20秒を切る、1分19秒351で優勝、2位には川越工、3位には和歌山北(和歌山)が入った。

4kmチームパーシュート

決勝はこの種目を得意の岐南工(岐阜)と、高校選抜の総合優勝校、八戸工(青森)との対戦であった。2kmまでは八戸工がリード、それ以後は岐南工がペースを上げ、4分38秒399で優勝、この種目の連勝記録を4に伸ばした。3位には大曲農(秋田)が入った。

個人ロードレース

非常に難易度の高い今大会のロードコース、大周回のKDDI中継所手前からエスケープを試みた高校選抜の覇者、西村光太(三重)と長義幸(田辺)の2年生のコンビの逃げは、一時集団との差は3分もあり、逃げ切るかに思われたが、小周回2周目でつかまった。その後、舟木誠(東白川農商)と中島康晴(科学技術)が逃げ勝負が決まっ



ケイリン決勝、フィニッシュ寸前

た。舟木が中島をゴール手前で振り切り優勝、2位には中島、松田究(北見北斗)が集団スプリントを制し3位に入った。

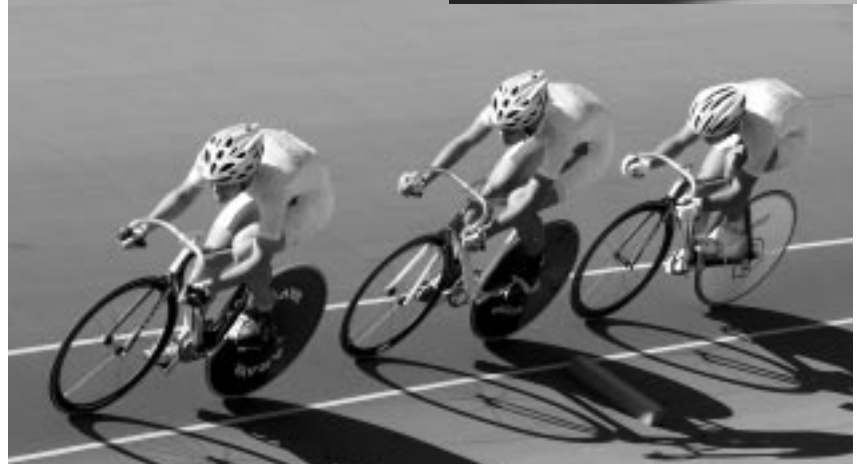
個人タイムトライアル・ロードレース

高体連種目の中でインターハイのみで実施のこの種目、最終スタートの池田丈志(北大和)が期待に応え平均時速43.9km/hで優勝、2位は1分8秒差で

チームスプリント、取手第一のフィニッシュ



チームスプリント優勝、地元取手第一





個人ロードのスタート

熊谷薫(岩瀬農業)3位には1分18秒差で小岩大介(日出暘谷)が入った。

学校対抗総合

東北(宮城)がトラック総合優勝に続き、学校対抗総合でも優勝、2位には昨年同様、岐南工(岐阜)3位は日出暘谷(大分)であった。東北は4名出場し団体種目を含む出場したすべての種目で入賞し栄冠を勝ち取った。

今大会を振り返り、オーロラビジョン・場内のTV放映を始め、空調の効いた特別観覧席の開放、そして中学生を招待しての自転車競技観戦、ただ開催するだけの大会からマイナー競技からの脱却を図る様々な取り組みが感じ取れる大会であった。今大会、選手監督のみならず、観客への「アピール」にも配慮が見られ大成功ではなかったと思います。地元県高体連、自転車競技連盟、関係各位のご尽力に心より感謝申し上げます。(中田 将次)



個人ロードTT優勝の池田



個人ロード優勝の舟木

[競技結果]

1kmタイムトライアル			
1	橋本 強 愛媛	松山聖陵高	1:07.043
2	須賀 和彦 茨城	取手第一高	1:07.863
3	白井 昌巨 岐阜	岐南工業高	1:08.492
4	早坂 秀悟 宮城	仙台商業高	1:09.199
5	甲斐 康昭 群馬	前橋工業高	1:09.387
6	中村 健志 熊本	九州学院高	1:09.814
スプリント			
1	北津留 翼 福岡	豊国学園高校	
2	三澤 康人 宮城	東北高校	
3	前田 義和 鹿児島	鹿児島実業高校	
4	吉松 賢二 群馬	前橋工業高校	
5	寺田 信彦 大分	別府商業高校	
6	佐川 翔吾 大阪	此花学院高校	
3km個人追抜競走			
1	青木 康貴 岐阜	岐南工業高	3:43.724
2	金澤 竜二 福島	学法石川高	3:44.243
3	熊谷 薫 福島	岩瀬農業高	3:44.073
4	前田 雅則 和歌山	和歌山北高	3:45.600
5	片折 勇輝 埼玉	川越工業高	3:47.571
6	根本 哲吏 秋田	大曲農業高	3:48.033
ポイントレース			
1	身崎 琢磨 宮城	東北高校	28p
2	坂本 昌宏 青森	八戸工業高校	25p
3	小岩 大介 大分	日出暘谷高校	24p
4	中島 康晴 福井	科学技術高校	10p
5	松村 光浩 和歌山	紀北工業高校	8p
6	菊地 純一 栃木	作新学院高等部	8p

4km速度競走			
1	竹山 陵太 宮城	東北高校	4:48.48
2	柿本 勇介 大分	日出暘谷高	4:49.00
3	小野 哲裕 神奈川	藤沢北高校	4:49.36
4	佐藤 幸治 秋田	六郷高校	4:51.49
5	藤野 孝彦 佐賀	龍谷高校	4:51.71
6	川瀬 雅之 岐阜	岐南工業高	5:06.35
ケイリン			
1	荻原 和文 群馬	前橋工業高校	
2	疋田雄一朗 大分	日出暘谷高校	
2	柴崎 俊光 三重	朝明高校	
4	桑原 亮 福岡	久留米工大附属高校	
5	柿沼 信也 埼玉	玉川工業高校	
6	椎木尾拓哉 和歌山	和歌山北高校	
リミネイション			
1	武藤 篤弘 群馬	前橋育英高校	
2	安部 龍文 大分	別府商業高校	
3	小森 正和 岐阜	岐阜第一高校	
4	佐藤 喜玲 宮城	東北高校	
5	中島 和夫 岐阜	岐南工業高校	
6	新谷 和仁 和歌山	紀北工業高校	
4km団体追抜競走			
1	岐南工高 岐阜	桐本・青木・白井・中島	4:38.399
2	八戸工高 青森	成田・坂本・五日市・宗前	4:46.129
3	大曲農高 秋田	仲村浄・根本・仲村天・守澤	4:50.721
4	紀北工高 和歌山	新谷・松村・吉田・前田	4:57.207
5	山形電波 山形	星野・菅井・立里・村上	4:53.392
6	紫波高校 岩手	佐藤・三上・米倉・高橋	4:53.806
チームスプリント			
1	取手第一高 茨城	須賀・松田・杉田	1:19.351
2	川越工業高 埼玉	吉田・宿口・片折	1:20.735
3	和歌山北高 和歌山	椎木尾・松村・前田	1:20.557
4	東北高校 宮城	佐藤・三澤・竹山	1:21.035
5	松山聖陵高 愛媛	芳野・木村・橋本	1:22.328
6	六郷高校 秋田	植村・佐藤・高橋	1:22.409
個人ロード・タイムトライアル(27.2km)			
1	池田 丈志 奈良	北大和高校	37:09.05
2	熊谷 薫 福島	岩瀬農業高	38:17.17
3	小岩 大介 大分	日出暘谷高	38:27.69
4	前田 雅則 和歌山	和歌山北高	38:47.40
5	三瀧 光誠 山形	村山農業高	39:15.95
6	阿久津優一 千葉	京葉工業高	39:24.02
7	小森 正和 岐阜	岐阜第一高	39:32.74
8	山本 大輔 岩手	盛岡農業高	39:33.70
9	蛭名 洋平 青森	三沢高校	39:35.07
10	山崎 泰史 神奈川	釜利谷高校	39:45.23
個人ロードレース(101.3km)			
1	舟木 誠 福島	東白川農商	2:40:11
2	中島 康晴 福井	科学技術高	2:40:12
3	松田 究 北海道	北見北斗高	2:40:57
4	笹原 裕 山形	村山農業高	2:40:57
5	立里 匡道 山形	山形電波工	2:40:57
6	松村 光浩 和歌山	紀北工業高	2:41:14
7	池田 良 広島	広島国際学院	2:41:15
8	山田 賢 神奈川	向上高校	2:41:15
9	後藤 仁志 熊本	開新	2:41:18
10	畑中 勇介 東京	昭和一	2:41:19
学校対抗総合成績			
1	東北高校	宮城	35p
2	岐南工業高校	岐阜	33p
3	日出暘谷高校	大分	27p
4	前橋工業高校	群馬	20p
5	和歌山北高校	和歌山	19p
6	取手第一高校	茨城	18p

第8回 MTB アジア大陸選手権大会

7つのメダルを獲得～DH男子 金・銀・銅/XC男子 金・銀メダル/DH女子 銀メダル/XC女子 銅メダル



7月19日～21日、台湾で開催されたMTBアジア大陸選手権にナショナルチーム10名が参加した。

気温は日本よりも高く、また前半は雨で湿度も高かったので体調が出来上がらないまま、DHのシーディングランがはじまった。男女共にトップタイムを出し、地元大会のタイムがわからないまま決勝を迎える。日本選手より前でスタートのライダーは予選と同じ様なタイムでゴールしていく、そして日本選手は予選のタイムを上回ってゴール。結果男子は表彰台を独占。一方女子も予選を上回るタイムを出したが2位、4位であった。

日曜日はXCの決勝が行なわれ、まず女子からスタート。直後に高橋選手が落車、再乗車したが2周目に棄権。一方の真下選手はトップで走るが後走の2名が上がって来ていた。熱さのため

ペースは落ちたが3位をキープしてゴールした。

男子決勝は1周目で早くも野口、白石の2名が後続を引き離して1、2で周回する。一方で山口選手は前日のケガでの投薬が合わず、体調が完全でないままレースをする。

ペースが上がらず周回するが、根性で完走した。1位野口、2位白石、そして後半頑張った山口が4位でゴール。

猛暑、酷暑の大会でこの成績をだした選手達におめでとう。(杉山 喜一)

〔競技結果〕

DH男子1/2ト(1.5km)

1 塚本 岳	JPN	3:13.63
2 安達 靖	JPN	3:14.92
3 高橋 唯之	JPN	3:17.20



DH女子1/2ト(1.5km)

1 JU MIAO CHEN	TPE	3:57.16
2 猪俣 浩子	JPN	4:03.13
3 HSIANG LAN LIU	TPE	4:05.29



4 水庫 士実	JPN	4:09.20
---------	-----	---------

CX男子1/2ト(27.3km)

1 野口 忍	JPN	1:30:05
2 白石 真悟	JPN	1:35:26
3 ERICE FELICIANO	PHI	1:36:19



4 山口 孝徳	JPN	1:38:15
---------	-----	---------

CX女子1/2ト(22.75km)

1 THANH HUYEN NGUYEN THI	VIE	1:39:58
2 MI HEE CWAK	KOR	1:45:57
3 真下 正美	JPN	1:53:07



高橋 唯之	JPN	DNF
-------	-----	-----

SHIMANO 競技補助専用

SHIMANO

勝つための選択



株式会社シマノ 〒590-8577 堺市老松町3丁77番地 「お客様相談窓口」電話 072-243-2829
 当社の自転車部門の製品カタログご希望の方は、『カタログ希望』と明記し、300円切手同封の上、
 〒590-0944 堺市柳屋町東1-1-1「シマノクラブPRセンター」宛にご郵送下さい。
 シマノ自転車製品は、インターネットホームページ「http://cycle.shimano.co.jp」でもご覧になれます。

乗車したまま走りきるコースレイアウトがマウンテンバイクレースの世界的な流れになっています。シマノはよりペダリングを重視したSPDシューズ&ペダルをそろえています。

高強度カーボンソール搭載
 軽量シューズ
 SH-M220
 ¥17,800
 標準小売価格(税別)



泥ハケ性能
 ステップイン&アウト
 フィーリングを
 大幅に向上
 PD-M959
 ¥13,700
 標準小売価格(税別)



第14回アジア大会 韓国・釜山・MTB選手団について

XC 鈴木 雷太(長野)・竹谷 賢二(千葉)・南部 博子(長野)・中込由香里(長野) コーチ:杉山 喜一
 DH 内嶋 亮(東京)・塚本 岳(埼玉)・末政 実緒(兵庫)・増田 まみ(埼玉) (MTB小委員会委員)

ツール・ド・チャイナ 2002 飯島 誠 総合優勝!



第1ステージ優勝の飯島

ツール・ド・チャイナは、1992年の日中国交正常化20周年を記念し、新たな民間スポーツ交流事業として日中合同で企画運営され、以来10回に亘り中国各地で開催されてきた。特に今年は、日中国交正常化30周年にあたり、首都北京市の中心部およびその近郊で4ステージが行なわれた。

参加チームは、日本からナショナルチーム、シマノ、日本大学。台湾からはチャイニーズ台北、チャイニーズ台北ジャイアント。その他、韓国水源、インドネシア、カザフスタン、モンゴル、オランダマルコポーロ、オーストラリアパース。そして開催国中国からジャイアント河南、ジャイアント北京、天津、マカオ、香港の併せて16チーム、総勢92名がスタートをきった。

7/27 **第1ステージ(103km)**曇のち雨
第1ステージは天安門広場を2周した後17kmのパレード。その後11時より老山において80km(5km×16周)のレースが行なわれた。

終始先頭集団に位置していた飯島誠が最終周回最初の上りでスパートし、そのまま後続に41秒差をつけ圧勝した。また飯島を抜群の動きでサポートした岡崎が19位、大塚が23位、岩本が36位、高島が37位と健闘した。

7/28 **第2ステージ(180km)**雨

第2ステージは昌平から有名墓陵のある十三陵を経て、海拔800mの解字石まで行なわれた。

朝から降りしきる雨の中を、9:10スタート。日本選手はイエロージャージの飯島が途中落車したものの集団に復帰し、岡崎らのサポートにより4位で

ゴールした。第2ステージを終了し個人総合では飯島がトップに20秒差の2位、ナショナルチームは6位につけた。

7/29 **第3ステージ**

(200km)曇り

第3ステージは、怀柔国際会議場前をスタートし、7.4kmの周回コースを10周、その後、万里の長城・慕田峪長城を見て走るコース125kmの併せて200kmである。後半は景色は抜群ながら海拔700m、1000mと2箇所の上りを含む難コースであり、選手を苦しめた。

レースは中盤以降、大塚、岩本、高島の若手3人が後方におかれ、終盤には先頭集団が17人に絞られた。2日目まで総合首位のIGLINSKIY(カザフスタン)を飯島、岡崎が牽制し機を窺いながらの争いとなり、飯島がトップと同タイムながら3位を確保し、岡崎も9位と健闘した。第3ステージを終了し、同タイムながら飯島がイエロージャージを取り返した。

7/30 **第4ステージ(122.2km)**曇り

最終ステージは、密云スポーツ公園9.4kmを13周するコースで行なわれた。

個人の優勝争いは、完全に飯島とIGLINSKIYに絞られた。ナショナルチームは、何としてでも飯島をチャンピオンにする体制をとり、シマノ、日本大学も飯島のサポートにまわった。

ゴールは、70人が集団となり同タイムで入ったが、終始先頭に位置した飯島は7位でゴールした。IGLINSKIYは15位となり、同タイムながら先着した飯島が各ステージでの順位の合計により、念願の総合優勝を果たした。

飯島の頑張りはもちろん、サポートに徹した岡崎、そして大塚、岩本、高島の若手もよくやってくれた。また、レース中、レース後を問わず、縁の下の力持ちの鉄沢メカ、体調・健康管理に徹した村川マッサー、三浦総務と恵まれたスタッフの中での勝利は私にとっても価値あるものとなった。

最後にもう一度「飯島君おめでとう」。チームメイト、そしてスタッフ一同に感謝します。(監督 福田 公生)

[競技結果]

第1ステージ(80.0km)

1	飯島 誠	JPN	1:55:47
2	山本 雅道	Shimano	1:56:28
3	IGLINSKIY MAXIM	KAZ	1:56:28
19	岡崎 和也	JPN	1:59:03
23	大塚 潤	JPN	1:59:03
36	岩本竜太郎	JPN	1:59:05
37	高島 豪	JPN	1:59:05

第2ステージ(180.0km)

1	IGLINSKIY MAXIM	KAZ	4:42:30
2	狩野 智也	Shimano	4:42:36
3	SUSANTO TONTON	Giant	4:43:19
4	飯島 誠	JPN	4:43:27
36	岡崎 和也	JPN	4:48:21
45	岩本竜太郎	JPN	4:49:40
61	大塚 潤	JPN	4:58:33
81	高島 豪	JPN	5:18:46

第3ステージ(200.0km)

1	POAD JAARON	Perth	5:11:48
2	BAZAYEN ASSAN	KAZ	5:11:48
3	飯島 誠	JPN	5:11:48
9	岡崎 和也	JPN	5:12:04
66	大塚 潤	JPN	5:45:11
66	岩本竜太郎	JPN	5:45:11
66	高島 豪	JPN	5:45:11

第4ステージ(122.2km)

1	SIMMS MICHAEL	Perth	2:44:14
2	MATNUR MATNUR	PolygonSweet	2:44:14
3	山本 雅道	Shimano	2:44:14
7	飯島 誠	JPN	2:44:14
62	高島 豪	JPN	2:44:14
70	岡崎 和也	JPN	2:44:14
78	岩本竜太郎	JPN	2:46:00
	大塚 潤	JPN	DNF

個人総合成績

1	飯島 誠	JPN	14:35:02
2	IGLINSKIY MAXIM	KAZ	14:35:02
3	SUSANTO TONTON	Giant	14:36:01
4	阿部 良之	Shimano	14:36:16
10	柿沼 章	Giant	14:39:15
13	盛 一大	日本大	14:40:29
19	普久原 奨	日本大	14:42:42
20	今西 尚志	Shimano	14:43:33
21	岡崎 和也	JPN	14:43:42
22	小笠原 豪	日本大	14:45:41
27	大内 薫	Shimano	14:49:23
30	狩野 智也	Shimano	14:55:15
35	小野寺考太	日本大	14:59:32
39	西谷 泰治	日本大	15:00:32
57	山本 雅道	Shimano	15:18:43
58	岩本竜太郎	JPN	15:19:56
71	高島 豪	JPN	15:47:16
	大塚 潤	JPN	DNF

団体総合成績

1	カザフスタンチーム	KAZ	43:50:22
2	GIANT A.R.T.	TPE	43:51:53
3	フルーツ	JPN	43:58:39
4	日本大学	JPN	44:07:37
8	日本ナショナルチーム	JPN	44:37:12

ツール・ド・チンハイ湖



第1回ツール・ド・チンハイ湖(Tour de Qing Hai Lake International Cycling Race)は7月27日から8月3日まで8日間8ステージ、走行距離771.9km。UCI登録レース(2-5)で招待チームはTTX(1チーム)、TTX(6チーム)、ナショナルチーム(10チーム)合計17チーム99名が参加した。今大会はチンハイ省が積極的で、マレーシアで行なわれているツール・ド・ランカウィに次ぐ規模で、連日テレビニュースでも大きく取り上げられた。

本大会は、標高2250mから最高3810mまで登る高地でのレースで、参加する選手にとっては想像を絶するものであった。出発前に連盟医化学部会の協力により、順天堂大学の低酸素室で4日間の合宿を行なったが、高地ト

レーニングの準備期間の少なさから、選手にとってはかなり厳しい状態でレースを迎えることとなった。レース前、新保、行成が頭痛、下痢、食欲不振になるなど高地での症状が現れた。

レースでは早くから現地入りして準備をした香港や地元中国に加えプロチームがレースをコントロール。第3ステージでは行成がトップグループに入っていたものの途中リタイヤ。初日不運の落車に見舞われた広瀬は第3ステージはゴールしたものは酸欠状態になりダウン。高地での回復は困難と考え二人は途中日本に帰国することとなった。

レース前不調を訴えていた新保は、第2ステージ7位、第7ステージ11位、第8ス

テージ6位と高地に体が順応しチームメイトのサポートもあり健闘した。総合成績では田中が19位、新保が33位、真鍋が62位と全ステージ完走した。個人総合優勝は第7ステージで64kmを独走し圧倒的な強さを見せたDanielson Tom(USA)であった。(高橋 松吉)

[競技結果]

個人総合成績			
1	Danielson Tom	USA	17:59:25.540
2	Chadwick Glen	AUS	18:01:35.871
3	Vocpini Xavier Tondo	ESP	18:02:44.149
19	田中 光輝	JPN	18:20:29.376
33	新保 光起	JPN	18:29:10.069
62	真鍋 和幸	JPN	18:44:04.271
	行成 秀人	JPN	DNF
	広瀬 敏	JPN	DNF



寄稿

岩手サイクルチャレンジ大会

岩手県紫波町では、自転車競技の振興・普及並びに競技場の有効利用を兼ね、サイクルチャレンジ大会を6月29日(土)紫波町自転車競技場で開催した。

自転車競技の普及を始め、健康づくり、環境に優しい乗り物としての自転車の利用など様々なメリットがある自転車、普段は競技者しか利用していない競技場を開放し、自転車の楽しさを思いっきり味わってもらった。

大会には岩手県増田知事夫妻、藤原紫波町長、県車連藤原会長等も自転車持参で参加し、幼児から高齢者まで総勢180名が楽しんだ。(幼児、小学生が6割)

内容は、最初に増田知事夫妻の先導で

参加者全員が競技場に慣れながら20分間走行した後、県内プロ選手10名が車番付きユニホームに身を包んで、模範競輪競走を披露。一列に並んだ選手一人ひとりを紹介し、解説付きの迫力あるレースに場内からため息が聞こえた。

続いてカテゴリー毎に1、2、3周のタイムを計測し上位3位までを表彰した。一度に3~5名がスタートした幼い走りの競走には歓声が響いていた。

町内星山小学生18名による一輪車の華やかな演技を鑑賞し、最後は参加者全員を3つのグループに分け(知事、町長、車連会長)1周づつのリレーを行い、閉会した。

今年で3回目を迎えた大会であるが、日

本自転車振興会からの参加賞の提供、並びに岩手県車連に全面的な協力をして頂くまでになったこの大会の参加者から、将来名選手が輩出されるかも……。

(岩手車連 似内 進)



TOUR de L'ABITIBI ツール・ド・ラビティビ 2002



成田空港を7月13日に発ち、経由したシカゴで通訳の石黒氏と合流し、カナダ・モントリオール市へ。市内に一泊し、メキシコ・ベルギー・オランダ・フランス等のチームと共に、バスにてVal-d'orの現地へ移動した。今年は時間的にも余裕のあるスケジュールであったため、昨年や一昨年と違い、荷物が便乗していないアクシデントに見舞われることなく無事到着した。到着後、オーガナイザーよりスケジュール表を渡され、チームT.T.の距離以外は全く同じステージであることを確認した。

今年は8ヶ国全24チームの総勢144名が参加する大会となる。

7月15日(月)プロローグ 15.4km

Mini-Criterium 2.2km x 7周

選手紹介の後、1周2.2kmを7周回で実施された。日本チームは若干の時差ばけを残したままスタート。プロローグとあってか、あまり目立った動きは無く集団のままレースは展開された。

結果は、昨年出場経験のある谷垣(京都・北桑田)が10位でゴールする健闘を見せた。

また、池田(奈良・北大和)、辻(京都・北桑田)ら韓国でのステージレース経験者も積極的な走りを見せ、翌日からのステージに期待の持てる走りを見せてくれた。

7月16日(火)第1ステージ 17.4km

Team T.T. Lac Fiedmont ~ Val-d'or

昨年は40.4kmの距離で19位に終わったチームタイムトライアルだが、今年は距離が17.4kmと短く、10位以内を目標に臨んだ。

レースは序盤より池田を中心に45km/hを超えるハイペースで進む。途中若干のペースダウンも見られたが、全

員でカバーしている様子がチームカーから覗かれた。後半に入り小野(神奈川・藤沢北)が集団より遅れ、ゴール直前で谷垣・辻も全力で先行し離脱、最後は池田・天沼(北海道・尚志学園)・柿本(大分・日出陽谷)でゴール、1位のサターンチーム(米国)に1分16秒遅れの10位でフィニッシュ。目標であった10位はクリアした。ただ6位のフランスとは8秒の差であったため惜しい気もした。

7月16日(火)第2ステージ 55.0km

Criterium 2.2km x 25周

このステージは午前中の疲れと明後日の個人T.T.の事を考慮して、集団の中で展開するように指示。選手も指示に従い集団の中位で展開した。しかし、ラスト一周のゴール手前で集団が二つに分裂し先頭集団には辻と小野、残り4人は後方集団で4秒遅れのゴールとなった。しかしチームとしてはこのステージ6位と上位に入り、総合成績でも8位とまずまずの順位であった。

7月17日(水)第3ステージ 115.9km

Road Criterium 109.3km + 2.2km x 3周

Rouyn-Noranda ~ Val-d'or

このステージは明日の個人T.T.のために他のチームもそんなに激しい戦いはしないと読んで、日本チームは集団待機で展開するように指示。レースはオランダ勢を中心に途中ポイント狙いの逃げこそあったが予想通りの展開で、結果的には集団に吸収されてのゴールとなる。辻がスタート直後にパンクしたがチームカーでの対応で集団復帰。小野も落車に巻き込まれたが大事に至らず集団に復帰。しかし谷垣がラスト10kmを切った地点でパンクし、集団に復帰することなく4分17秒遅れでフィニッシュ。他の5人は予定通り集

団でのゴールとなる。総合成績もこのステージを終わった時点で変動は無かった。

7月18日(木)第4ステージ 13.9km

個人T.T. Val-d'or

いよいよ個人T.T.を迎えた。昨年同様に鉱山の地下からスタートしての過酷なコース設定、しかも外気温が12と低く、「寒い」の一言である。多分スタート地点は震えるほどの寒さであったであろう。

日本チームは、谷垣以外のスタート時間が皆接近してたので、チームカーは早いスタートの谷垣と期待が持てる池田に付くことにした。谷垣は元気がよく鉱山の地下より地上に駆け上がってきたが、チームカーが付いた直後に前後輪が同時にパンクしてしまい、思いがけないロスをしてしまうアクシデントに見舞われてしまった。

池田は、スタートしてから快調にペースをつかみ走行していたが、後半右折しなければならぬ所を直進、15秒ほどのロスをしてしまう。しかし、この日は皆の頑張り、個人T.T.を終えた時点で総合成績を7位に浮上させた。

7月18日(木)第5ステージ 83.5km

Road Criterium 70.3km + 2.2km x 6周

Senneterre ~ Val-d'or

午前中の個人T.T.が終わり、それぞれの役割がはっきりしてきた。とにかく池田を上位に食込ませることと、チームの成績をひとつでも上位に持つて行くことに専念するように指示。

しかし、このステージは予想とは裏腹に比較的動きのない大人しい展開であった。そんな中で日本チームが見せてくれた。クリテの最終周回に小野と辻がアタックをかけ集団を揺さぶり、ゴール勝負でインが空いたところに池田が飛び込んできて2位でフィニッシュ。初の表彰台へ立つことができた。

池田は個人順位を31位とし、日本チームは総合成績7位をキープした。

7月19日(金)第6ステージ 116.4km

Road Criterium 103.2km + 2.2km x 6周

Amos ~ Val-d'or

前半よりオランダチームが激しく動く。日本チームも総合順位を上げるためには動くしかなく指示を出したが、なかなか動けず集団のままの展開を余儀なくされてしまう。

レースはオランダ選手を含む4人が20秒程の差で逃げたままクリテコース

へ入る。残り4周回で吸収はされたが、別のオランダ選手が単独でアタック。そのまま逃げ切り8秒後に集団がゴール。日本チームも柿本・小野・辻が積極的にクリテで仕掛けたが不発に終わる。池田が14位とこの日チームの最高順位でゴールした。総合は7位のままだったが、オランダ勢の走りを見てステージレースでの走りを垣間見たような気がした。

7月20日(土)第7ステージ 102.7km
Road Criterium Preissac ~ Val-d'or
前半より総合成績2位のサターン(米国)が動く。1位のアメリカナショナルチームをとらえるのは今日しかないと思われたのであろう。

このステージは途中大規模な集団落車があり、日本チームも辻・柿本・小野・谷垣の4人が被害にあってしまうが、柿本・小野・谷垣は自力で集団に復帰。辻の被害が一番大きかったがうまくチームカーを利用して集団に復帰した。

レースはサターンの選手2名を含む数名の先頭集団がメイン集団を1分30秒程リードして展開。そのままクリテコースへと入るが、結局メイン集団に吸収される。その後、残り3周で天沼がアタックし単独で抜け出したが遭えなく吸収される。

このステージも集団でのゴール勝負となった。しかし、日本チームは辻が8位・池田が11位・柿本が12位に食い込み、このステージをチームで制した。しかし、集団ゴールのため総合順位は大きい変動はなかった。

7月21日(日)第8ステージ 70.4km
Criterium 2.2km x 32周

いよいよ最終ステージである。この日は朝から生憎の雨で回復の兆しが無い。疲れもピークに達しているようなので、とにかくトラブルだけは避けなければならない。

レースは、雨模様のせいにかいつものスピードよりかなり遅く、縦長の集団で周回を重ねていく。毎回誰かがアタックを仕掛けては吸収されていくといった展開のレース運びとなる。

残り10周回程のところカナダの選手3名が集団より抜け出し、そのままゴール12秒遅れで大集団のゴールとなる。日本チームは柿本の9位・池田の11位・辻の13位でチームとしては最終ステージ4位でフィニッシュ。総合成績も7位キープで終了した。

今回のレースを振り返ってみると、

今回代表として参加した6名は最終日まで勝つことへのこだわりを見せてくれて、とても良かったと思う。日本にステージレースを始めとするレースがもっともっと沢山あれば、また違った良い結果が出せる気がした。パンクや落車に何度遭っても決して腐らず、次の日にはまた、気持ちを切り替えて臨んでいる姿を見ると、人選に間違いはなかったと思う。昨年の総合20位から7位へと躍進できたのも、そんな気持ちの表れではないだろうか。

また、通訳の石黒氏の懇切丁寧なサポートもこの結果に大きく貢献されている。今回このレースで得たものは大きく、今後国内をはじめとするレースで彼らはきっとこの経験を生かした活躍を見せてくれるであろう。

最後に今回の参加に際しご支援ご協力を頂いた関係各位・団体に敬意を表します。(高体連 塚崎 邦嗣)

[競技結果]

プロトタイプ (15.4km)

1 Meerkerk, Norman	Saturn	21:55
2 Gerritsen, Onno	Hollande	21:55
3 Norris, Keith	NE Regional A	21:55
10 谷垣 雄基	JPN	21:55
35 柿本 勇介	JPN	21:55
37 池田 丈志	JPN	21:55
52 天沼 雅貴	JPN	21:55
70 小野 哲裕	JPN	21:55
77 辻 善光	JPN	21:55

第1ステージ (チームATT 17.4km)

1 Saturn Team	21:53
2 USA	22:04
3 Belgique-Sweet Paradise	22:13
10 日本	23:09

第2ステージ (55.0km)

1 Van Ijzendoorn, Eddy	NED	1:21:46
2 Farrar, Tyler	USA	1:21:46
3 Meerkerk, Norman	Saturn	1:21:46
18 辻 善光	JPN	1:21:46
24 小野 哲裕	JPN	1:21:46
37 池田 丈志	JPN	1:21:50
40 柿本 勇介	JPN	1:21:50
59 谷垣 雄基	JPN	1:21:50
78 天沼 雅貴	JPN	1:21:50

第3ステージ (115.9km)

1 Chiocca, Matthieu	Fr.Comté	2:38:40
2 Farrar, Tyler	USA	2:38:40
3 Meerkerk, Norman	Saturn	2:38:40
15 池田 丈志	JPN	2:38:40
30 柿本 勇介	JPN	2:38:40
48 辻 善光	JPN	2:38:40
62 小野 哲裕	JPN	2:38:40
87 天沼 雅貴	JPN	2:38:40
112 谷垣 雄基	JPN	2:42:57

第4ステージ (13.9km)

1 Farrar, Tyler	USA	20:21
-----------------	-----	-------

2 Davidson, Andrew	Alberta	20:35
3 Stiler-Cote, Oliver	Saturn	20:38
29 池田 丈志	JPN	21:46
36 天沼 雅貴	JPN	21:58
38 小野 哲裕	JPN	22:05
50 辻 善光	JPN	22:15
85 柿本 勇介	JPN	22:03
106 谷垣 雄基	JPN	22:43

第5ステージ (83.5km)

1 Van Ijzendoorn, Eddy	NED	1:50:29
2 池田 丈志	JPN	1:50:29
3 Fausse, Guillaume	Québec	1:50:29
16 辻 善光	JPN	1:50:29
40 谷垣 雄基	JPN	1:50:29
67 小野 哲裕	JPN	1:50:29
74 天沼 雅貴	JPN	1:50:29
108 柿本 勇介	JPN	1:56:45

第6ステージ (116.4km)

1 Harms, Jos	NED	2:33:15
2 Cameron, Evans	Col-Britannique	2:33:23
3 Meerkerk, Norman	Saturn	2:33:23
14 池田 丈志	JPN	2:33:23
32 天沼 雅貴	JPN	2:33:23
77 柿本 勇介	JPN	2:33:23
92 小野 哲裕	JPN	2:33:23
96 辻 善光	JPN	2:33:23
120 谷垣 雄基	JPN	2:36:41

第7ステージ (102.7km)

1 Chiocca, Matthieu	Fr.Comté	2:19:07
2 Lacombe, Kevin	Québec	2:19:07
3 Van Ijzendoorn, Eddy	NED	2:19:07
8 辻 善光	JPN	2:19:07
11 池田 丈志	JPN	2:19:07
12 柿本 勇介	JPN	2:19:07
15 谷垣 雄基	JPN	2:19:07
27 天沼 雅貴	JPN	2:19:07
40 小野 哲裕	JPN	2:19:07

第8ステージ (70.4km)

1 Cameron, Evans	Col-Britannique	1:46:35
2 Davidson, Andrew	Alberta	1:46:35
3 Lavoie, Jean-Sébastien	Québec	1:46:39
9 柿本 勇介	JPN	1:46:47
11 池田 丈志	JPN	1:46:47
13 辻 善光	JPN	1:46:47
38 小野 哲裕	JPN	1:46:47
50 天沼 雅貴	JPN	1:46:47
61 谷垣 雄基	JPN	1:46:47

個人総合成績

1 Farrar, Tyler	USA	13:12:27
2 Stiler-Cote, Oliver	Saturn	13:12:43
3 Wilcox, Craig	Saturn	13:13:01
27 池田 丈志	JPN	13:15:07
29 天沼 雅貴	JPN	13:15:23
31 小野 哲裕	JPN	13:15:26
32 辻 善光	JPN	13:15:36
74 柿本 勇介	JPN	13:22:44
77 谷垣 雄基	JPN	13:24:43

団体総合成績

1 USA	38:54:36
2 Saturn Team	38:55:01
3 Belgique-Sweet Paradise	38:56:47
7 日本	38:59:38

2002 ロード・トラック・ランキング(7月現在)

[ロードレース]

男子エリート・ロードレース

E	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	鈴木 真理	JPCA	E	P	3,828.3
2	狩野 智也	JPCA	E	P	2,604.0
3	岡崎 和也	JPCA	E	P	2,416.7
4	飯島 誠	JPCA	E	P	2,039.3
5	広瀬 敏	石川	E	P	1,992.6
6	真鍋 和幸	JPCA	E	P	1,952.0
7	今西 尚志	京都	E	m	1,951.0
8	新保 光起	JPCA	E	P	1,917.3
9	田中 光輝	愛知	E	m	1,298.7
10	行成 秀人	岡山	E	P	1,268.3
11	福島 晋一	JPCA	E	P	1,256.3
12	渋谷 淳一	JPCA	E	P	1,129.5
13	柿沼 章	栃木	E	m	912.8
14	飯島 規之	JPCA	E	P	800.0
15	大内 薫	大阪	E	P	743.1
16	西村 拓也	京都	E	P	741.0
17	水谷 壮宏	JPCA	E	P	721.0
18	鈴木 新史	JPCA	E	P	718.1
19	山本 雅道	神奈川	E	P	701.6
20	坂口 博	愛知	E	P	685.1
21	阿部 良之	JPCA	E	P	660.8
22	岡田 哲也	JPCA	E	P	646.8
23	日置 大介	兵庫	E	P	633.5
24	榎井 幹雄	JPCA	E	P	600.0
25	西谷 雅史	東京	E	m	551.4
26	矢澤 真幸	京都	E	P	536.2
27	中井 健二	JPCA	E	P	480.0
28	飯田 輝男	茨城	E	P	478.0
29	江下 健太郎	愛知	E	P	472.3
30	広瀬 学	石川	E	m	455.2
31	中川 康二	茨城	E	m	451.8
32	別府 匠	神奈川	E	P	451.5
33	児玉 利文	JPCA	E	P	440.0
34	鈴木 雷太	長野	E	P	415.1
35	三浦 恭資	JPCA	E	P	408.0
36	秋田 謙	愛知	E	P	402.2
37	宇根 秀俊	JPCA	E	P	400.0
38	高橋 祐介	栃木	E	P	397.0
39	武井 大介	JPCA	E	P	360.0
40	廣瀬 佳正	JPCA	E	P	335.0
41	米山 一輝	東京	E	P	332.7
42	江本 泰輔	東京	E	P	323.6
43	佐野 多喜男	JPCA	E	P	320.0
44	浅野 浩一	東京	E	P	312.8
45	長野 耕治	愛媛	E	P	304.6
46	高野 篤	東京	E	P	296.0
47	内田 新二	JPCA	E	P	280.0
48	藤野 智一	JPCA	E	P	260.0
49	高橋 栄光	岩手	E	P	250.6
50	山根 泰道	岡山	E	P	240.0

男子U23・ロードレース

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	西谷 泰治	広島	U	P	1,384.5
2	岩本 竜太郎	広島	U	P	1,285.0
3	盛 一大	茨城	U	P	1,233.4
4	品川 真寛	京都	U	P	1,135.2
5	和野内 公次	大阪	U	P	1,014.1
6	石田 哲也	愛知	U	P	882.2
7	山本 敬純	大阪	U	P	859.4
8	辻浦 圭一	奈良	U	P	831.5
9	吉井 淳	広島	U	P	779.3
10	清水 良行	岡山	U	P	778.6
11	河野 通明	京都	U	P	764.1
12	小林 誠	滋賀	U	P	761.4
13	辻 貴光	京都	U	P	735.8
14	園谷 崇	福島	U	P	725.6

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
15	内山 靖樹	大阪	U	P	707.8
16	小野寺 孝太	岩手	U	P	682.0
17	上田 誠	奈良	U	P	669.9
18	明珍 多久雄	福島	U	P	643.2
19	渡邊 哲平	京都	U	P	635.9
20	別府 史之	神奈川	U	P	600.0
21	鈴木 謙一	静岡	U	P	563.3
22	普久原 奨	沖縄	U	P	538.2
23	辻 龍一	大阪	U	P	517.8
24	平井 信昭	兵庫	U	P	494.5
25	津水 浩平	大分	U	P	454.0
26	清水 都貴	鹿児島	U	P	452.0
27	三浦 勇一	京都	U	P	445.7
28	向川 尚樹	大阪	U	P	418.6
29	浅野 英明	大阪	U	P	406.2
30	管 洋介	東京	U	P	395.5

男子ジュニア・ロードレース

J	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	池田 丈志	奈良	J	P	1,015.0
2	天沼 雅貴	北海道	J	P	652.5
3	西村 光太	三重	J	u	600.0
4	村上 純平	山形	J	P	560.0
5	小岩 大介	大分	J	P	500.0
6	辻 善光	京都	J	P	446.0
7	小野 哲裕	神奈川	J	P	445.0
8	長 義幸	和歌山	J	P	421.0
9	畑中 勇介	東京	J	P	375.0
10	櫻井 透	神奈川	J	s	336.2
11	柿本 勇介	大分	J	P	315.0
12	谷垣 雄基	京都	J	P	310.0
13	長沼 隆行	埼玉	J	P	288.5
14	笹原 裕	山形	J	P	269.0
15	山田 賢	神奈川	J	P	258.0
16	大村 寛	鹿児島	J	P	257.0
17	立里 匡道	山形	J	P	255.0
18	島田 真琴	山京	J	u	235.0
19	小椋 康寛	岐阜	J	s	225.8
20	吉次 裕司	山口	J	P	222.0
21	中島 康晴	福井	J	P	205.0
22	内田 翔太	大阪	J	P	190.0
23	池田 直道	兵庫	J	P	178.0
24	向川 訓司	大阪	J	s	175.2
25	松村 光浩	和歌山	J	P	175.0
26	渡辺 将大	群馬	J	P	165.5
27	児玉 規英	東京	J	P	155.0
28	瀧口 晃広	奈良	J	P	151.0
29	川野 公志	鹿児島	J	P	147.5
30	宮腰 圭祐	福井	J	P	136.0

女子・ロードレース

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	中村 珠藻	奈良	U	P	2,237.5
2	大塚 恵美	東京	U	P	1,749.0
3	大塚 歩	栃木	U	P	1,680.0
4	小野山 恵美	愛媛	E	P	1,319.5
5	杉村 久美	岩手	E	P	1,299.0
6	西 加南子	千葉	E	P	1,272.5
7	村中 恵美子	東京	E	P	1,242.0
8	唐見 実世子	石川	E	P	1,155.0
9	許斐 真由子	鹿児島	U	P	1,010.0
10	沖 美穂	JPCA	E	P	1,000.0
11	小高セツコ	埼玉	E	P	903.4
12	前川 康子	埼良	U	P	843.6
13	坂井 理沙	青森	U	P	775.0
14	林 佐知子	東京	E	P	769.0
15	塩原 桂子	東京	E	P	736.0
16	福森 智子	三重	E	P	620.0
17	永田 萌子	大分	J	P	540.0
18	松永 舞美	香川	U	P	533.0
19	斎藤 綾	秋田	U	P	487.0
20	福井 裕美	静岡	U	P	436.0
21	佐藤 智子	福島	E	P	423.0

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
22	宮崎 杏菜	大分	J	P	390.0
23	坂田 佳子	兵庫	E	P	378.0
24	益田 聖子	福島	U	P	298.0
25	中山 朋子	神奈川	E	P	297.0
26	岡田 未来	京都	J	P	290.0
27	楠 里紗	東京	J	E	273.4
28	志村 みち子	長野	E	P	256.5
29	木村 春恵	青森	U	P	240.0
29	谷村 祐美子	奈良	J	P	240.0

[トラックレース]

男子エリート・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	在本 直樹	岡山	E	P	1,520.0
2	村上 義弘	JPCA	E	P	1,196.0
3	大森 慶一	北海道	U	P	1,000.0
4	篠原 忍	群馬	U	P	872.0
5	伏見 俊昭	JPCA	E	P	840.0
6	井上 昌己	JPCA	E	P	800.0
7	竹沢 浩司	富山	U	P	700.0
8	稲村 成浩	JPCA	E	P	672.0
9	中川 誠一郎	JPCA	E	P	500.0
10	荒井 崇博	JPCA	E	P	420.0

男子エリート・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	金子 貴志	JPCA	E	P	1,672.0
2	青木 亮太	群馬	U	P	1,186.0
3	湯原 正行	長野	E	P	1,027.0
4	前反 祐一郎	JPCA	E	P	840.0
5	伊勢崎 彰大	JPCA	E	P	800.0
6	上吹越 直樹	JPCA	E	P	696.0
7	長塚 智広	JPCA	E	P	650.0
8	櫻山 新太郎	福岡	U	P	500.0
9	布居 寛幸	JPCA	E	P	420.0
10	永井 清史	岐阜	U	P	380.0

男子エリート・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	黒木 裕介	宮崎	U	P	2,340.0
2	佐々木 孝司	JPCA	E	P	1,490.0
3	飯島 規之	JPCA	E	P	1,472.0
4	浦門 義人	兵庫	E	P	1,152.0
5	伊藤 太一	山梨	U	P	790.0
6	諸橋 愛	JPCA	E	P	746.0
7	坂口 博	愛知	E	P	695.0
8	吉野 鉄平	広島	U	P	440.2
9	高橋 栄光	岩手	E	P	430.0
10	久保田 奉文	JPCA	E	P	420.0

男子エリート・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	西谷 泰治	広島	U	P	1,840.0
2	窓場 加乃敏	JPCA	E	P	1,322.0
3	高島 豪	埼玉	U	P	1,002.0
4	大塚 英伸	JPCA	E	P	896.0
5	飯島 規之	JPCA	E	P	800.0
6	吉井 功治	JPCA	E	P	660.0
7	鰐淵 正利	JPCA	E	P	546.0
8	飯島 誠	JPCA	E	P	500.0
9	山中 猛	JPCA	E	P	420.0
10	武藤 大輔	高知	E	P	406.0

男子エリート・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	朝倉 佳弘	東京	U		1,520.0
2	篠原 忍	群馬	U		902.0
3	櫻井 丈	静岡	U		720.0
4	山口 裕之	山形	U		713.2
5	吉田 康則	岡山	E	m	660.0
6	石丸 健次	千葉	E	m	560.2
7	塩原 正長	広島	E	m	546.0
8	小野 旭裕	兵庫	U		460.0
9	菊地 隼人	栃木	U		325.0
10	井戸川智則	福島	U		314.0

男子ジュニア・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	臼井 昌巨	岐阜	J		1,426.0
2	青木 康貴	岐阜	J		556.0
3	金澤 竜二	福島	J		465.0
4	三瀧 光誠	山形	J		362.0
5	吉田 裕全	埼玉	J		315.0
6	熊谷 薫	福島	J		245.2
7	前田 雅則	和歌山	J		190.0
8	片山 智晴	岡山	J	s	140.0
9	池田 丈志	奈良	J		120.0
10	片折 勇輝	埼玉	J		100.0

女子・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	太刀川麻也	茨城	E		1,840.0
2	篠崎 新純	千葉	J		1,672.0
3	遠藤 友子	大分	J		1,646.0
4	中尾 友美	奈良	U		1,510.0
5	伊東 静香	宮城	J		756.2
6	須藤 朋美	福島	J		667.0
7	遠山 恵	岩手	E		448.0
8	埋田 麻衣	大分	J		400.0
9	落合麻衣子	宮城	J		375.2
10	藤原亜衣里	新潟	U		344.0

男子プロ・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	山田 裕仁	JPCA	E	P	1,000.0
2	山口 富生	JPCA	E	P	969.2
3	太田 真一	JPCA	E	P	917.6
4	齋藤登志信	JPCA	E	P	840.0
5	小橋 正義	JPCA	E	P	672.0
6	會田 正一	JPCA	E	P	546.0
7	堤 洋	JPCA	E	P	500.0
8	東出 剛	JPCA	E	P	420.0
9	星島 太	JPCA	E	P	235.2
10	新藤 敦	JPCA	E	P	168.0

男子ジュニア・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	三瀧 光誠	山形	J		1,252.0
2	片山 智晴	岡山	J	s	1,057.0
3	坂本 昌宏	青森	J		893.2
4	身崎 琢磨	宮城	J		524.6
5	中島 康晴	福井	J		500.0
6	松村 光浩	和歌山	J		406.0
7	立里 匡道	山形	J		356.0
8	小岩 大介	大分	J		325.0
9	桐本 祥吾	岐阜	J		161.2
10	櫻井 透	神奈川	J	s	160.0

女子・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	杉村 久美	岩手	E		1,920.0
2	斎藤 綾	秋田	U		1,840.0
3	村中恵美子	東京	E		1,396.0
4	大塚 歩	栃木	E		960.0
5	許斐真由子	鹿児島	U		759.2
6	松尾 亜美	大分	J		692.0
7	木村 春恵	青森	U		672.0
8	永田 萌子	大分	J		640.0
9	越後 祥子	青森	J		621.0
10	須藤 朋美	福島	J		608.2

男子ジュニア・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	橋本 強	愛媛	J		1,186.0
2	臼井 昌巨	岐阜	J		752.2
3	北津留 翼	福岡	J		500.0
4	甲斐 康昭	群馬	J		485.2
5	川村 崇	東京	J	s	414.0
6	須賀 和彦	茨城	J		346.0
7	五日市 誠	青森	J		301.2
8	屋良 朝春	沖縄	J	s	256.0
9	小倉 知幸	福島	J	s	219.0
10	植村 翔太	秋田	J		160.0

女子・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	篠崎 新純	千葉	J		2,212.0
2	太刀川麻也	茨城	E		1,840.0
3	遠藤 友子	大分	J		1,496.0
4	大菅小百合	長野	U		1,000.0
5	中尾 友美	奈良	U		860.0
6	伊東 静香	宮城	J		611.0
7	落合麻衣子	宮城	J		566.2
8	平中あゆ美	岩手	J		539.2
9	仁藤ひろみ	静岡	U		470.0
10	越後 祥子	青森	J		453.2

女子・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	大塚 歩	栃木	E		2,040.0
2	斎藤 綾	秋田	U		1,782.0
3	杉村 久美	岩手	E		1,069.2
4	坂井田理沙	青森	U		920.0
5	松永 舞美	香川	U		885.2
6	大塚 恵美	東京	U		748.0
7	中村 珠藻	奈良	U		644.2
8	木村 春恵	青森	U		546.0
9	許斐真由子	鹿児島	U		162.6
10	益田 聖子	福島	U		160.0

男子ジュニア・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	北津留 翼	福岡	J		2,080.0
2	前田 義和	鹿児島	J		937.0
3	屋良 朝春	沖縄	J	s	530.0
4	須賀 和彦	茨城	J		485.2
5	疋田雄一朗	大分	J		400.0
6	三澤 康人	宮城	J		325.0
7	桑原 亮	福岡	J		190.0
8	古屋 晋也	大分	J		156.0
9	松田 優一	茨城	J		146.2
10	藤木 裕	京都	J		140.0

「ツール・ド・おきなわ2002」参加者募集のお知らせ

期 日 平成14年11月9日(土)・10日(日)
 会 場 沖縄県北部圏域(やんばる)
 問合せ先 NPOツール・ド・おきなわ協会
 〒905-0014 沖縄県名護市港2-1-1(名護市民会館2階)
 TEL 0980-54-3174 FAX 0980-54-3169
 URL <http://www.tour-de-okinawa.jp>

「第3回チャレンジ・ザ・オリンピック」開催のお知らせ

期 日 平成14年10月20日(日)
 会 場 静岡県修善寺・日本CSC 250mトラック
 詳細が決定次第 JCF ホームページにてご案内します。
 URL <http://www.jcf.or.jp> <本年は女子も参加できます>

.....
 ・ エリート: E(プロ:EP、マスター:Em)
 ・ アンダー-23: U
 ・ ジュニア: J(15才:Ju、18才以下:18才生:Js)

競技大会 結果

大会名・チーム名等については略して記載

第36回西日本実業団自転車競技大会 (7/13-14 関西CSC)

スプリント

- 1 吉本 哲郎 VELOCISTA B-ルイスミ
- 2 久富 武 三菱化学物流レーシングクラブ
- 3 吉松 直人 マリノワールド T.T城北
- 4 奥平 充男 岩井商会サイクルクラブ
- 5 橋本 勝弘 イキップユーレーシング
- 6 伊藤 成紀 VELOCISTA B-ルイスミ

1kmタイムトライアル

- 1 在本 直樹 三菱化学物流 1:06.548
- 2 吉本 哲郎 VELOCISTA 1:07.328
- 3 三宅 達也 三菱化学物流 1:07.644
- 4 池田 憲昭 サイクルクラブ FET 1:08.251
- 5 矢野 賢児 マリノワールド T.T 1:08.993
- 6 日浅 保幸 三菱化学物流 1:09.018

4km個人追抜競走

- 1 坂口 博 愛三工業レーシング 4:47.260
- 2 狩野 智也 シルレーシング 4:48.523
- 3 武藤 大輔 マリノワールド T.T 4:56.240
- 4 三木 哲也 サイクルクラブ FET 5:02.197
- 5 今西 尚志 シルレーシング 5:02.122
- 6 櫻脇 哲也 カガワFET 5:02.147

ケイリン

- 1 吉田 康則 三菱化学物流レーシングクラブ
- 2 矢野 賢児 マリノワールド T.T城北
- 3 塩原 正長 丹波乳業レーシングクラブ
- 4 中山 延行 マリノワールド T.T城北
- 5 百々 敦史 サイクルクラブ FETアックス
- 6 中村 幸二 チュリップレーシングチーム

リミネーション

- 1 山本 雅道 シルレーシング
- 2 楠本 正昭 愛三工業レーシングチーム
- 3 清水 誠悟 チョーフル仁
- 4 中西 浩一 チームフェア
- 5 大内 薫 シルレーシング
- 6 福田 透 カガワFET

ポイントレース

- 1 大内 薫 シルレーシング 42p
- 2 狩野 智也 シルレーシング 32p
- 3 楠本 正昭 愛三工業レーシングチーム 29p
- 4 大矢 繁 チームフェア 20p
- 5 武藤 大輔 マリノワールド T.T城北 16p
- 6 清水 良行 チーム岡山 10p

女子500mタイムトライアル

- 1 小野山恵美 イキップユーレーシング 40.848
- 2 赤澤 佳美 三菱化学物流 41.835
- 3 谷村祐美子 VELOCISTA 41.963
- 4 小谷 翠 NCFR 42.502
- 5 唐見実世子 ビーシステム BikeSys 43.424
- 6 野々 雅子 チュリップレーシングチーム 43.751

女子3km個人追抜競走

- 1 唐見実世子 ビーシステム BikeSys 4:06.291
- 2 小野山恵美 イキップユーレーシング 4:18.660
- 3 谷村祐美子 VELOCISTA 4:22.817
- 4 小谷 翠 NCFR 4:26.322
- 5 赤澤 佳美 三菱化学物流 4:37.327
- 6 植野 海空 トコ 4:37.336

女子リミネーション

- 1 小野山恵美 イキップユーレーシング
- 2 谷村祐美子 VELOCISTA B-ルイスミ
- 3 植野 海空 トコ
- 4 田中 明香 TEAM TOYOTA
- 5 唐見実世子 ビーシステム Bike system
- 6 小谷 翠 NCFR

4km団体追抜競走

- 1 愛三工業 坂口・楠本・郡山・秋田 4:41.800
- 2 シルレーシング 阿部・狩野・大内・山本 4:41.831
- 3 マリノワールド 矢野・山田・武藤・篠原 4:50.014
- 4 カガワFET 櫻脇・藤田・小林・西村 4:53.732
- 5 三菱化学物流 藤原・緒方・三宅・日浅 4:57.085
- 6 VELOCISTA 門松・田中・道林・伊藤 4:57.408

マドイン

- 1 愛三工業 A 坂口・楠本 25p
- 2 愛三工業 B 郡山・秋田 9p
- 3 カガワFET A 藤田・小林 (-1)11p
- 4 三菱化学物流 藤原・緒方 (-2)5p
- 5 267 SHIMONO 中島・向川 (-2)4p
- 6 カガワFET B 東島・和野内 (-4)1p

チームスプリント

- 1 三菱化学物流 吉田・在本・三宅 1:18.068
- 2 サイクルクラブ FET 池田・矢野・百々 1:18.649
- 3 VELOCISTA 多田・今津・吉本 1:19.423
- 4 マリノワールド T.T 小松・中山・吉松 1:22.603
- 5 イキップユーレーシング 片岡・橋本・溝江 1:23.511
- 6 トコ 川畑・仲松・喜納 1:24.314

第43回全日本学生選手権 (7/27-28 岩手・紫波自転車競技場)

女子スプリント

- 1 遠藤 友子 鹿屋体育大学
- 2 中尾 友美 筑波大学
- 3 斉藤 綾 順天堂大学

女子500mタイムトライアル

- 1 遠藤 友子 鹿屋体育大学 38.529
- 2 中尾 友美 筑波大学 39.409
- 3 松永 舞美 法政大学 41.26

女子3km個人追抜競走

- 1 斉藤 綾 順天堂大学 4:16.071
- 2 許斐真由子 鹿屋体育大学 4:25.083
- 3 中村 珠藻 順天堂大学 4:18.495

女子ポイントレース

- 1 斉藤 綾 順天堂大学 40p
- 2 松永 舞美 法政大学 27p
- 3 中村 珠藻 順天堂大学 22p

スプリント

- 1 櫻山新太郎 日本大学
- 2 牧野真左彦 東北学院大学
- 3 篠原 忍 中央大学
- 4 竹沢 浩司 日本大学
- 5 北野 大地 東北学院大学
- 6 小堺 浩二 京都産業大学

1kmタイムトライアル

- 1 川村 崇 早稲田大学 1:09.950
- 2 西村 尚文 法政大学 1:10.089
- 3 小倉 知幸 東北学院大学 1:10.907
- 4 佐野 伸弥 法政大学 1:11.186
- 5 柴田 祐也 法政大学 1:11.230
- 6 西村 行貴 日本大学 1:11.263

4km個人追抜競走

- 1 黒木 裕介 法政大学 追抜き勝
- 2 伊藤 太一 日本大学 OVT
- 3 石田 宏樹 法政大学 5:02.868
- 4 明珍 周兵 法政大学 5:09.660
- 5 清水 良行 京都産業大学 5:04.106
- 6 大野 涼太 中央大学 5:09.836

ポイントレース

- 1 清水 都貴 鹿屋体育大学 46p
- 2 片山 智晴 法政大学 45p
- 3 平林 大宜 早稲田大学 45p
- 4 圓谷 崇 日本大学 43p
- 5 浅野 英明 早稲田大学 41p
- 6 吉井 淳 関西大学 37p

ケイリン

- 1 小野 旭裕 京都産業大学
- 2 工藤 大輔 東北学院大学
- 3 菊地 隼人 日本大学
- 4 平岡 靖章 北海学園北見大学
- 5 井戸川智則 日本大学
- 6 山口 裕之 法政大学

クォーターマイルスプリント

- 1 菊地・糸賀 日本大学
- 2 中田・片山 東京大学
- 3 古川・高森 明治大学
- 4 黒木・廣田 鹿屋体育大学
- 5 西川・本田 中央大学
- 6 菊地・糸賀 日本大学

マドイン

- 1 伊藤 明珍 日本大学 45p
- 2 佐々木・小椋 日本大学 18p
- 3 岡田・柴田 法政大学 10p
- 4 向川・葛谷 中京大学 4p
- 5 櫻山・近藤 日本大学 (-3)7p
- 6 吉井・陸野 関西大学 (-4)6p

2002JCF・MTBジャパンシリーズ J1/XC#7 (8/4 長野・白馬さのさか)

男子XCエリート(42km)

- 1 山口 孝徳 長野 MX・MON 1:57:27.65
- 2 竹谷 賢二 千葉 FORD/SP1:58:44.58
- 3 白石 真悟 大阪 大阪大学 2:03:02.51
- 4 色川 浩樹 茨城 GIANT 2:04:34.62
- 5 柴田 富夫 長野 Jamis 2:04:41.94
- 6 深谷 幸彦 愛知 TARGET 2:06:44.78
- 7 堂城 賢 長野 GARY F. 2:09:02.93
- 8 山本 和弘 北海道 GASPANIC 2:09:22.67
- 9 後藤 清作 長野 GIANT 2:09:41.63
- 10 宮本 光司 茨城 FORD-SP2:10:09.70

女子XCエリート(24km)

- 1 南部 博子 長野 TREK VW 1:20:27.31
- 2 中込由香里 長野 SY-Nak 1:22:05.19
- 3 小林可奈子 長野 A&F ROC 1:25:33.78
- 4 深井 薫 大阪 FUNRIDE 1:31:26.89
- 5 酒井 真清 大阪 Be-One 1:31:52.98
- 6 田近 郁美 岐阜 GOD HILL



トラック・ワールドカップ 第5戦 中国・昆明

1kmタイムトライアル伏見が銀メダル/チームスプリント(長塚、金子、井上)銀メダル/日本新記録続出!

8月9日から11日の3日間、中国・昆明にてワールドカップ第5戦(最終戦)が開催された。

大会会場は海拔1900mの高地。競技場は屋外でコンクリート走路、最大斜度35度50分、路面も凹凸が少なく走りやすく、日本の自転車競技場と似ている感があった。

今大会では、男子1kmタイムトライアルでは、若干17歳キューバのロペス・マホメッド選手(現在WCCにてトレーニング中)が1分01秒376世界ジュニア新記録をマークし、女子500mタイムトライアルにおいても、中国のJIANG Yonghua選手が34秒000の世界新記録を樹立するなど全体的にも好記録に恵まれた大会であった。

大会2日目は200mタイムトライアルと団体追抜き2チームが走った後、降雨のため中止となったが、最終日に2日目のプログラムをあわせて無事競技は終了した。

日本選手団は、大会前の練習でも好記録が予感されていたとおり、7つの日本記録を出す健闘をみせた。

1kmタイムトライアルでは、井上昌己がアウト・オブ・コンペティション(競技外の出走)で最初にスタートし、いきなり1分02秒895のタイムを叩き出した。また、伏見俊昭がそのタイムを更に上回る1分02秒158で銀メダルを獲得した。また、これまで神山雄一郎が持っ

ていた日本記録1分02秒910('95年コロンビア)を7年振りに更新した。

チームスプリントは予選1位通過で決勝チェコと対戦。長塚、金子、井上のメンバーで優勝の期待がかかったが、僅差で敗れた。予選でのタイムを更に決勝で上回る集中力と常に最高の力で走りきる力が今後の課題であろう。

男子4km個人追抜競走で飯島規之も自己の記録を上回る日本新記録の4分31秒618であったが6位と終わった。

また、伊勢崎彰大が200mタイムトライアルで10秒191で日本新記録を樹立。

女子では、遠藤友子も500mタイムトライアル(アウト・オブ・コンペティション)36秒997でジュニア日本新記録を更新。太刀川麻也が200mタイムトライアルでは11秒675で自己日本記録を更新。また、500mタイムトライアルでも橋本聖子の持つ日本記録36秒859を上回る36秒265で8年振りに更新したが、8位にとどまった。

[競技結果]

男子ケリツ

1	BURAN Pavel	CZE
2	BERZINS Viesturs	LAT
3	VASILOPOULOS Lampros	GRE
9	伏見 俊昭	JPN

男子個人追抜競走

1	SIEDLER Sebastian	GER	4:27.968
2	TILLMAN Mike	USA	4:33.842
3	POLATAYKO Lyubomyr	UKR	4:28.743
6	飯島 規之	JPN	4:31.618

チームスプリント

1	Czech Rep.	CZE	1:00.254
2	日本(長塚・金子・井上)	JPN	1:01.033
3	Greece	GRE	1:00.486

男子スプリント

1	BERZINS Viesturs	LAT	
2	BURAN Pavel	CZE	
3	BERGENANN Carsten	GER	
12	伊勢崎彰大	JPN	
	金子 貴志	JPN	1回戦敗退

男子15kmスクラッペス

1	VRBA Ivan	CZE
2	MARVULLI Franco	SUI
3	GIBB Tony	GBR
7	飯島 規之	JPN

男子1kmタイムトライアル

1	LOPEZ Ahmed	CUB	1:01.376
2	伏見 俊昭	JPN	1:02.158
3	MARTINEZ Benjamin	BOL	1:02.591

女子ケリツ

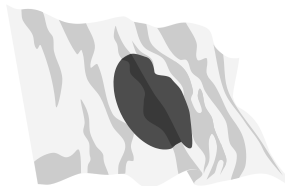
1	LI Na	CHN	
2	TIAN Fang	CHN	
3	REED Jennie	USA	
12	太刀川麻也	JPN	
	遠藤 友子	JPN	敗復敗退

女子スプリント

1	LI Na	CHN	
2	FREITAG Kathrin	GER	
3	TIAN Fang	CHN	
11	太刀川麻也	JPN	
	遠藤 友子	JPN	予選敗退

女子500mタイムトライアル

1	JIANG Yonghua	CHN	34.000
2	FREITAG Kathrin	GER	34.711
3	HIJGENAAR Yvonne	NED	35.448
8	太刀川麻也	JPN	36.265



日本新記録

200mフライングスタート

男子プロ	10秒191	伊勢崎彰大	(JPCA・千葉)	2002/8/10	中国・昆明
女子シニア	11秒675	太刀川麻也	(茨城・スーパーKアスリートラボ)	2002/8/10	中国・昆明

500m

女子シニア	36秒265	太刀川麻也	(茨城・スーパーKアスリートラボ)	2002/8/11	中国・昆明
女子ジュニア	36秒997	遠藤 友子	(大分・鹿屋体育大学)	2002/8/11	中国・昆明

1km

男子プロ	1分02秒895	井上 昌己	(JPCA・長崎)	2002/8/11	中国・昆明
男子プロ	1分02秒158	伏見 俊昭	(JPCA・福島)	2002/8/11	中国・昆明

4km

男子プロ	4分31秒618	飯島 規之	(JPCA・埼玉)	2002/8/9	中国・昆明
------	----------	-------	-----------	----------	-------

2002～2003シーズン 国内シクロクロスカレンダー

月	日	曜	北海道SP	茨城県シカ	長野CCM	シロクスイ富山	関西シロク	シロクスイ広島	北九州シロク
9月	8日	日	#1 長 沼						
10月	6日	日	#2 長 沼						
	20日	日				#1 砺 波			
	27日	日	#3 長 沼						
11月	3日	日				#2(未定)			
	4日	月			#1 高ボッチ				
	9日	土			#2 富士見				
	10日	日	#4 長 沼	#15 真 壁	#3 富士見		#1 日 吉	#1 島根県仁多	
	17日	日				#3 黒 部	#2 野洲川		
	24日	日						#2 もみのき	
12月	1日	日		#16 真 壁	#4 佐 久	#4(未定)			
	7日	土					#3 希望ヶ丘 全日本選手権		
	8日	日					#4 由良川		#1 北九州
	15日	日			#5 原 村		#5 淀 川	#3 備北丘陵公園	
	22日	日			#6 穂 高		#6 桂 川	#4 土師ダム	
	23日	月							
'03 1月	5日	日					#7 三段池	#5 宮島町	
	12日	日			#7 山 梨				
	19日	日			#8 上山田		#7 三段池	#5 宮島町	
	25日	土					#8 丹 波		#2 北九州
	26日	日						#6 みわくの里	
2月	2日	日							#3 北九州
	9日	日						#7 中央森林公園	
	16日	日							

= WCSセレクションシリーズ

= UCI登録立候補レース

シクロクロス小委員会

連盟の動き (7月下旬～8月中旬)

- 7月25日 ツール・ド・チャイナ日本選手団出発(帰国 12)於:中国・北京周辺
 8月 3日 第2回競技運営委員会
 6日 職員会議
 7日 トラック・ワールド・カップ選手団出発(帰国 12)於:中国・昆明
 17日 ジュニア・トラック世界選選手団出発(帰国 26)於:オーストラリア・メルボルン

選手強化委員会から
 新メンバーのお知らせ
 選手強化委員会・医科学委員
 内丸 仁
 強化指定選手(長距離・女子)
 齋藤 綾・許斐真由子

編集後記

今やすっかり“真夏の風物詩”となった全国高校野球選手権が今年も甲子園球場で開催されている。ウダるような暑さのなか、球児たちのひたむきなプレーは一服の清涼剤となっている。

この大会は全国各地で1ヶ月近くわたる予選が行われ、その段階から地元の新聞、テレビ等はスポーツニュースのメインとして紙面や時間を割いて大きく報道している。甲子園での試合になるとNHKのテレビ・ラジオがすべての試合を全国に実況中継し、朝日・読売等の全国紙、出場校の地元紙もニュースとして大きく採り上げる等、この期間一般の人々の関心事となっている。

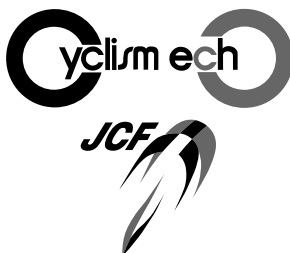
情報化社会の今日、多種多様な情報が洪水のように氾濫している。マスコミの世界では“情報の無いものは存在しないに等しい”とされているが、このフレーズを借りれば、高校野球は大会期間中情報の中心に存在するものと云えよう。

また、人気の要素として、身近にあること、カッコが良いこと、面白いこと、話題に上がること等があると云われるが、高校野球の場合、身近な郷土の高校が代表になっており、カッコ良さや面白さはスポーツの持つ特性であり、ドラマチックな展開やヒーローの出現等話題にも事欠かない。

スポーツには野球等の球技、陸上、水泳、自転車等多数の競技種目があるが、国際的な大会を除いて、国民全般の人気を博し、マスコミで大きく報道されるものは野球やサッカーに片寄っていてその数は非常に少ない。自転車競技に至っては、一部の競技種目を除いては種目名すら知られず、マスコミの取材も少なく、一部の自転車の専門誌に競技の結果や選手の活躍が記事として掲載されているのが実状である。自転車競技連盟の広報委員会のメンバーとして1年余り協力しているが、そこで初めて、毎月大きな大会があることを知ったほどである。

今後はマスコミに積極的に情報を発信をしていくとともに身近で話題になるように競技の底辺を拡大し、世界に通用する競技者を育成することが必要となるだろう。マスコミへの情報発信は大会スケジュールを送るだけではなく、大会の意義、主な出場選手とそのプロフィール等マスコミが興味なり、関心を持つようキメ細かく定期的に行うことが重要となってくる。

スケートの選手が自転車競技に挑戦して、ニュースとして自転車競技が報道されることは嬉しいが、そのことだけがクロースアップされ、話題になっている状況は淋しい感じがしてならない。(佐藤 米治)



シクリスムエコー No.89 2002年8月号

発行/財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/岩 楯 昭 一

編集人/村 田 統 司

編集事務局/財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL http://www.jcf.or.jp/